



アンドリュー・デブリト (Andrew Debrito)

リージョナル・バイスプレジデント兼
フォーシーズンズホテル大手町 東京 総支配人

「地域コミュニティとのつながりを大切にするこゝで、お客様にとって本当の意味で居心地のよい空間を提供するホテルになれると確信しています。ホテルとは、都市生活者のライフスタイルに溶け込み、人々が集い、つながれる場所になって初めて成功したと言えるのです。」

出身地： クアラルンプール (マレーシア)
学歴： シンガポールホテル協会ホテル経営学課程修了、 ペン・フ
ォスター大学 (ペンシルベニア州スクラントン) 経営管理学
準学士号取得
言語： 英語、マレー語、タミル語

フォーシーズンズでの在職期間：1992年から現在。リージェント ホテル クアラルンプール (旧フォーシーズンズホテル) にウェイターとして入社。

職歴：フォーシーズンズホテル 北京、フォーシーズンズホテル ジャカルタ、フォーシーズンズリゾート アビ
アラ (現フォーシーズンズレジデンス クラブ サンディエゴ, アビアラ)、フォーシーズンズホテル 上海、フ
ォーシーズンズホテル ムンバイ、フォーシーズンズリゾート ランカウイ、フォーシーズンズリゾート モルデ
ィブ アット クダフラ、リージェント ホテル クアラルンプール (旧フォーシーズンズホテル)、コンコルド
ホテル クアラルンプール マレーシア

フォーシーズンズホテル大手町 東京は、対照的な風景が交差する東京の一等地によく馴染む施設です。デブ
リトは、総支配人として指揮をとるこのホテルと、自身が感じるこの街の魅力に関して、次のように述べて
います。「私はまるで5歳児のように、日々あらゆる角度から新しい発見をしています。当ホテルはお客様
が東京を存分に堪能できる理想的な場所にあり、この街に新しさをもたらします。」

この「新しさ」はキーとなります。近年ホテルの新設があまり見られなかったこのエリアで、当ホテルの誕
生はセンセーションを起こしています。建物は2棟から構成されており、1つの棟の6フロアが193室を有す
るホテルとなり、もう1つの棟がオフィスビルとなります。このホテルは、皇居に近い、日本有数のビジネ
ス街の中心に位置します。「これは当ホテルが提供するコントラストの一部です。お客様は皇居の緑豊かな
美しい庭園を鑑賞し、通りを歩いてすぐに大手町の中心の大企業のオフィスビルが立ち並ぶエリアにたどり
着きます」とデブリトは述べました。

このホテルは、最先端のスパや屋内プール付きのフィットネスセンター、高層階のテラス席を擁する超一流
のフレンチとイタリアンレストランなど、ラグジュアリーな施設を備えます。会議室やイベントスペースも
充実しており、高まる外国人旅行者の需要に応え、東京の国際舞台でのホットスポットとしての競争力を一
層高めます。

様々な多目的スペース、および独自のチャペルとウェディングショールームは東京のウェディング市場へ新
しい風をもたらします。「結婚式は人生においてとても重要なお祝い事であり、私たちはその体験をさらに
思い出深いものにします」とデブリトは述べました。

デブリトはこれらの施設やサービスが外国人旅行者だけをターゲットにしているのではないことを補足し、
次のように述べています。「地域コミュニティとのつながりを大切にするこゝで、お客様にとって本当の意
味で居心地のよい空間を提供するホテルになれると確信しています。ホテルとは、都市生活者のライフス
タイルに溶け込み、人々が集い、つながれる場所になって初めて成功したと言えるのです。」

それを実現するのは容易なことではありません。デブリトは、フォーシーズンズホテル 北京で総支配人を務めていた際に、パブリックスペースでフラワーワークショップやアートの講演会を開催し、心のこもったイベントや体験を通じて地域の人々を惹きつけてきました。その経験を振り返り、以下のように述べました。「私が得た教訓は、大々的なことをするのが大事なのではなく、さまざまなライフスタイルや業界の人々の心にアピールすることをしなければならないということです」。また、成功とは、人々がホテルの空間を心地よく感じられることだと補足しています。「私はこれまでずっと、ホテルを自宅のように居心地のよい空間にすることを大切にしてきました。豊かな体験の提供を通して、そのような雰囲気をつくることができると考えてます。」

マレーシアで生まれたデブリトは、故郷のクアラルンプールでホスピタリティ業界のキャリアをスタートさせました。デブリトの父親はこのキャリア選択を好ましく思っていないでした。「しかし、私はこの業界にこだわりました。私が今も昔も変わらず魅了されているのは、人と場所をつなげること、そして、グループとしての協調の精神や目標の実現です。」

デブリトはフォーシーズンズでの長いキャリアのなかで、飲食部門に情熱を注ぎ、そのマネジメントに時間を費やしてきました。デブリトが、このキャリアを選んだ理由は、創造力を発揮できる仕事であるということです。「飲食部門では、ダイナミックにさまざまな人々と一緒に素晴らしいものを創り上げることができます。私は枠にとらわれずに考えることが好きで、飲食部門にリミットはありません。」

大の読書家でもあるデブリトは、東京での活動の第一歩として日本の歴史に関する本を熱心に読んでいます。「新しい街にやってくる最初に読むのは歴史の本と決めています。すぐにその場所とつながることができるからです」日本では、大好きなベストセラー作家、村上春樹の本を読むことも楽しみにしています。「彼の本は電車で読むのに最適です。東京に来てからは、電車での移動が多くなるでしょうから。」